

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北川副小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問っている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	78.9	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	88.2	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	93.2	91.4

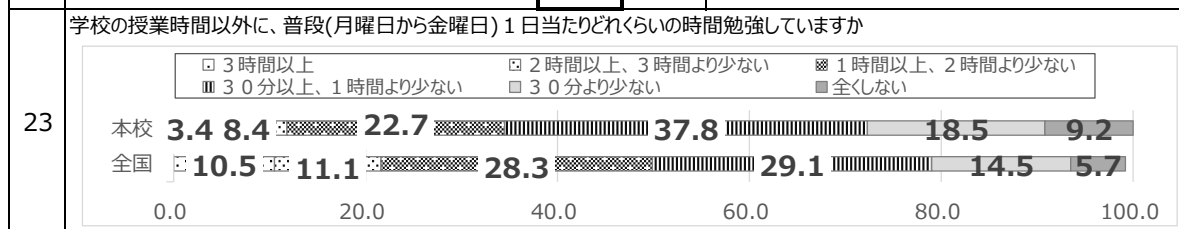
本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎自ら課題に取り組もうとする姿が見られます。
◎対話や協働を通して学びを深めようとする意識も高い傾向が見られます。

●学校の授業時間以外の勉強時間が30分より少ない児童が27.7%と全国平均より高くなっています。
●自分に合った学び方を選択・調整しながら学習を進めていく力を高める必要があります。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	74.8	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	79.0	78.4



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	88.2	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	84.0	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	84.9	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	95.0	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎多くの児童が夢や目標をもち、自分のよさを感じながら生活している様子が見えがえします。
◎人の役に立ちたいという思いも高いようです。

●「学校に行くのは楽しいと思う」と回答する児童が全国平均を下回っています。
●地域や社会との関わりを通して、自分も社会の一員であるという意識を高めていくことが求められます。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.8	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	77.3	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

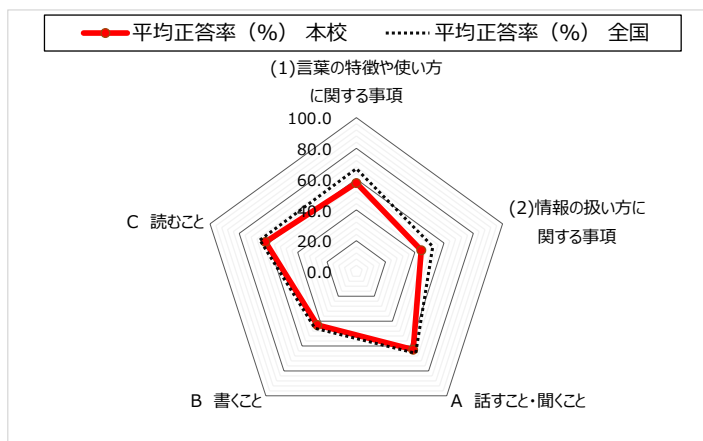
- 児童が学校に行くのが楽しいと感じ、日々の授業に熱中できるよう、授業改善に取り組んでいます。
- 友達との関わりの中で自分の考えを伝えたり、新たな考えに気付いたりできるよう、授業において話し合い活動を取り入れています。
- どのような学習活動においても、結果だけではなく、そこに至るまでの過程についても認めたり、励ましたりしていきます。

【ご家庭では】

- ご家庭においてもお子さんの声に耳を傾け、「どうしたの？」「あなたはどうしたいの？」と考えを引き出す対話や、結果だけでなく、考えたことや挑戦したことにも目を向け、認め励ます声かけをお願いします。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	57.5	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	44.4	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	62.9	65.8
	B 書くこと	43.1	45.7
	C 読むこと	62.1	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	57.4	61.9
短答式	51.7	62.6
記述式	49.1	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎漢字で「短い」と書く問題の正答率が80.2%でした。また、文章を読み、その中から言葉や文を取り上げ、自分の考えや経験を書く問題は、全国平均に近い72.4%という正答率でした。

●漢字で「不思議」と書く問題の正答率が23.3%でした。また、集められた情報の中から本の題名や本文をかぎ(「」)を使って引用し、指定された字数で自分の考えをまとめて書く力に課題が見られました。「漢字」、「書くこと」において、どちらも内容によって強みと課題が見られました。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 三ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	80.2	80.0
3 三 (2)	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	72.4	76.4

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	23.3	45.2
2 四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	25.9	33.5

調査結果を受けて

【学校では】

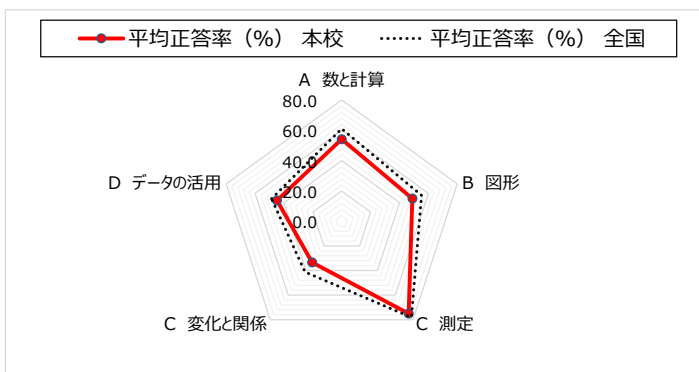
- 児童に書き方を示したり、キーワードや字数、引用など、指定された条件の中で自分の考えを書くことに慣れさせたりする取組を日々の授業に取り入れます。
- 「読書デー」などを通して読書に親しみ、新しい文章や言葉に触れる機会を増やします。

【ご家庭では】

- お子さんが書いた作文などを見てください。書かれた内容について詳しくたずねたり、感想を伝えたりして、楽しく会話するきっかけの一にしたいです。
- 語彙力を高め、知識の幅を広げるためにも読書は効果的です。「読書デー」をはじめ、日ごろから読書する時間を大切にしましょう。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	54.2	61.1
B 図形	48.9	55.3
C 測定	75.0	78.1
C 変化と関係	33.3	41.1
D データの活用	44.8	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	50.0	56.0
短答式	53.1	59.7
記述式	42.8	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取る問題では全国平均を上回る76.6%という正答率でした。

● 二次元の表から条件に合う数を読み取る問題の正答率が全国平均を大きく下回る6.9%でした。グラフや表の形式によって、読み取る力に大きな差が出ていることが分かりました。

● 内容別に見ると、「変化と関係」の「割合」の問題での正答率が全体的に低くなっており、図や式から数量の関係の特徴を読み取って問題を解決する力に課題が見られました。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 (1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	92.2	94.5
4 (4)	帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる	76.7	74.9

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
4 (3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	6.9	17.9
2 (4)	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	24.1	34.2

調査結果を受けて

【学校では】

- 言葉と図と式を関連付けたり、「10%増量」「1割引」など生活場面と結び付けたりして考えさせることで、問題解決ができるようにします。
- ノートチェック、プリント、ドリル等、日々の指導の中で個々のつまづきを見つけて補充指導をしたり、復習を取り入れたりします。

【ご家庭では】

- 算数の学習では、「学習したことが生活に使える、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。「家から〇〇までが約1km」や「mL」、「kg」を身の回りの物などで体感させるなど、生活場面において学習したことを触れさせてください。